
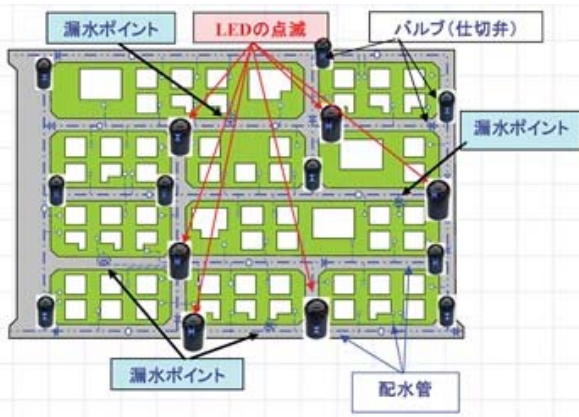



基本情報

企業名	水道テクニカルサービス株式会社	
技術・製品	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">製品</div> 管路の常時監視・モニタリング機器(常設型自動漏水音検知器(配水管型、給水管型)):L-sign	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">技術サービス</div> 漏水調査実施(受託)、漏水調査計画策定、漏水調査機器の販売	
		
		
	<p>地表面目視等の漏水検知手法技術しか有さない事業体において、常設型監視装置と音聴式／相関式を組合わせた漏水検知技術を用いることにより、より効率的な漏水箇所の特定が可能となる。</p>	
導入によって期待される効果	<p>従来に比してより効率的に漏水箇所を特定することができるため、迅速な修理対応が可能となる。これに伴い、無収水率の改善が期待される。</p>	

調査概要

対象国・地域	インド・バンガロール	
スキーム・年度	外務省「案件化調査」/2014年 ⇒ JICA「普及・実証事業」/2015年2月～2017年2月	
事業名称	案件化調査: 上水道漏水検知サービスの案件化調査 普及・実証事業: 自動漏水音検知器を用いた漏水検知システムの普及・実証事業	
共同提案者	案件化調査: エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社(JV)	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 横浜水ビジネス協議会でのワークショップによる情報収集が契機 ▶ 現地課題は、水道サービスにおける質・量・給水時間の確保、老朽化した水道管および施工不良に起因する漏水、未熟な漏水検知手法(地表面目視) ▶ 現地ではこれまで、スエズやインド財閥企業が漏水対策を実施してきたが成果が出ていなかった。 	
調査概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 現地の給水環境(低水圧・輪番給水)に適した漏水検知機器の改良 ▶ パイロット地域での実証および普及活動(3,000器のL-sign設置) ▶ バンガロール上下水道局(BWSSB)職員への漏水検知技術研修、漏水調査の重要性を指導 	
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パイロット調査で発見した漏水件数:29件(配水管上漏水9件、給水管上漏水14件、バルブ漏水4件、盗水2件)、推定漏水量:373L/M。 ▶ C/P 機関内において漏水管理に関する認知が高まり、バンガロール市上下水道局内に漏水調査対策部署が設置 ▶ 継続的な漏水管理の実施のためには、組織全体での認知と基礎的ノウハウの蓄積、継続的なトレーニングまたは漏水調査の実施が必要。 	